

対話を通じた新しい学校空間づくりのプロセスに関する調査研究

本研究では、対話を通じた新しい学校空間づくりのプロセスについて、対話を行った時期や背景、抱えていた課題等の基礎的な情報の収集や、現在の空間活用状況、学校空間づくり時のコンセプトの継承に関する具体的な取組などを調査し、対話の意義や、プロセスの提案、より充実した学校空間づくりの対話の場を設けるポイント等を提示している。

【調査対象】

< 質問紙調査 >

(いずれも、対話を通じた新しい学校空間づくりを行った学校)

学校設置者

学校施設担当者1名

(公立: 37自治体(回答率: 90.2%)(小学校16校, 中学校7校, 義務教育学校14校)

私立: 7法人(回答率: 70.0%)(小学校2校, 中学校5校))

教職員

学校管理職1名

対話に参加した教職員1~3名

(公立: 28校(回答率: 68.2%)(小学校13校, 中学校4校, 義務教育学校11校)

私立: 8校(回答率80.0%)(小学校2校, 中学校6校))

< 訪問調査 >

異なる地域や課題背景, 学校規模, 対話の形式で行っている事例12校

(小学校6校, 中学校5校, 施設一体型小中一貫教育校1校)

【調査内容】

< 質問紙調査 >

学校設置者

学校施設に関する基礎情報及び対話中の状況
教職員

対話に関する教職員の感じ方や施設完成後の学校施設の利用状況

としてwebにより送付し, 課題や背景, 対話の形式や参加者の属性, 頻度, 温度感, 時期等及び建設・整備後の教育や運用の状況, 対話に参加したことによる参加者同士の関係性の変化や設置者・学校が感じた対話プロセスの成果等に対して事実や感じていることについて調査した。

(調査時点: 令和3年5月1日現在)

< 訪問調査 >

質問紙調査で行っている内容を掘り下げ, 対話の場の設置や運営上工夫している点や, 対話の場で出た意見やその対応, 対話した結果生まれた室, 空間, 計画の変更などの具体的な内容を聞き取るとともに, 現在の空間活用の様子, 継承の取組の様子などを調査した。

【得られた成果】

対話を通じた新しい学校空間づくりを行った学校施設担当者が, 「教育・学校空間づくりに関する参加者の考えが深まった」「より具体的に利用者が求める施設・設備を盛り込んだ設計を行うことができた」等, 学校空間づくり時に実現できると望ましい内容について肯定的に感じている様子が見られた。

○地域で育てたい子供の姿を共有, 思いを学校建物へ反映, 教育内容や空間活用が引き継がれる仕組みづくりなど「教育内容や思いの実現」を, 対話に参加した関係者が理解を深めたり, 知識が増えることでそれぞれの成長にもつながり, さらに, 参加した教職員同士の関係性が向上したり, 授業での空間活用の意識が高まるなど「関係者に関する前向きな変化」を, 課題の克服から参加者自身の成長や関係性の向上など様々な利点が見られた。

【提案やポイント】

調査の結果得られた内容から, 関係者の成長につながる対話の形式の提案, 及びより充実した学校空間づくりの対話の場を設けるポイントについてQ&A形式でまとめている。

(参考) 学校空間づくり時に抱える理想やよくみられる課題から対話プロセスを経て生まれる利点

学校づくり時に抱えている理想や課題

教育内容や思いの実現
(未来に向けて実現したいこと)

地域で育てたい子供の姿、行いたい教育実現のための学校空間づくり

主体的・対話的で深い学びへの対応
(主体性を持たせやすい空間、グループ活動しやすい空間など)

社会に開かれた教育課程実現
(そのための空間確保、社会との関係構築)

建設時に関係者がしばしば抱える課題

教員の要望が伝わらない

地域住民・保護者の理解促進
(建築行為、小中一貫教育実施など)

より望まれる建物づくりのための設計者の情報収集

現状の学校施設でしばしば見られる課題

使い勝手の悪さ
(頻繁な机やいすの移動、発表などのための教室の制限)

設計者の意図が伝わらない、空間の使用法が引き継がれずうまく活かされない

理想や課題に対し、対話することで実現が見込まれる点及び、対話によって生まれるさらなる利点

教育内容や思いの実現

地域で育てたい子供の姿、各地域に根差した個性を持つなど、関係者の意見を踏まえた学校空間

行いたい教育が行いやすい、使い勝手のいい空間

空間活用、学校の教育理念が引き継がれる仕組みの構築
(地域を巻き込み、社会に開かれた教育課程実現などが構築しやすい学校と地域との関係づくりの実現)

対話
(対話中に行われること)

どういう教育をしたいか、参加者それぞれが考え、意見を共有する

関係者が要望、意見を出す
(他の人の意見を聞いたりじっくり考えるなど、対話により意見が深まる)

設置者側として、関係者の理解を得る
(改築・改修への理解、小中一貫など実現したい教育への理解)

設計者と関係者との意思疎通
(こんな教育をしたい、など理念の共有)

各課題解決に加え、対話によってさらに得られること

教職員同士の関係性の向上

学校空間を活用したこんな授業をしたいなどの発想の転換

関係者に関する前向きな変化

関係者それぞれが検討したり理解を深められる機会を得られる
(どのような教育をしたい、どのような学校にしたい)

教職員など関係者の意見を踏まえた施設の完成、使い勝手の向上

地域一緒に学校づくりを行うことで、地域の理解促進が進む

設計者が学べる機会を得られる
(よりよい望まれる施設づくりを検討、対話に関するスキルの向上)